

参考資料

- I. 緑に関する市民意識調査結果
- II. 広報での素案公開に寄せられた市民意見
- III. 一部見直しの経緯

I. 緑に関する市民意識調査結果

平成9年度「都市計画マスタープラン策定に関するアンケート調査」において、市民の緑に対する意識や要望は次のようになっています。

1. 設問回答のまとめ

(1) 緑の役割について

緑のもつ役割について上位3つを抽出してもらったところ、1位には「きれいな空気の供給」「心を安らげる」「まちの景観を良くする」があげられており、2位には「動植物の生育の場」などがあげられています。

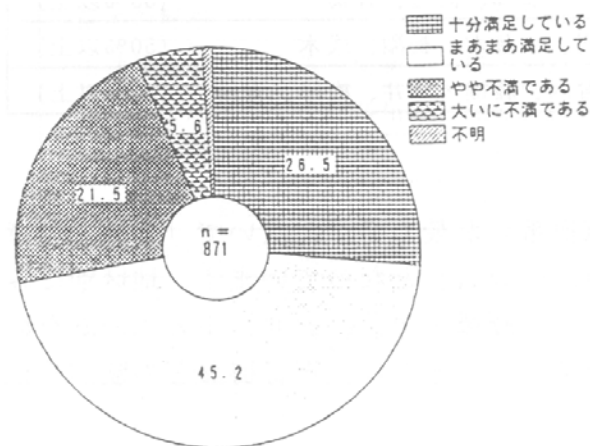
1位	2位	3位
きれいな空気の供給 (22.3%)	きれいな空気の供給 (29.7%)	心を安らげる (32.7%)
心を安らげる (21.6%)	動植物の生育の場 (14.8%)	きれいな空気の供給 (16.8%)
まちの景観を良くする (17.3%)	心を安らげる (14.4%)	まちの景観を良くする (16.0%)

(2) 緑の量について

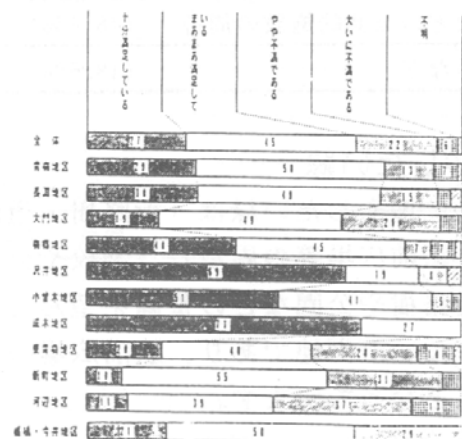
1) 緑量の満足度

緑量に対する満足度は、7割以上の方が満足していると回答しており、地区別にみると、成木、小曾木、沢井などの山地・丘陵地で満足度が高く、一方、河辺、東青梅、新町などの市街地で不満と回答する人が多くなっている。

■ 緑の満足度 (全体)



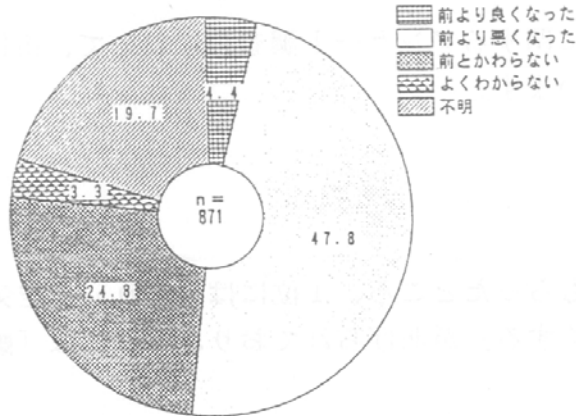
■ 地区別の傾向



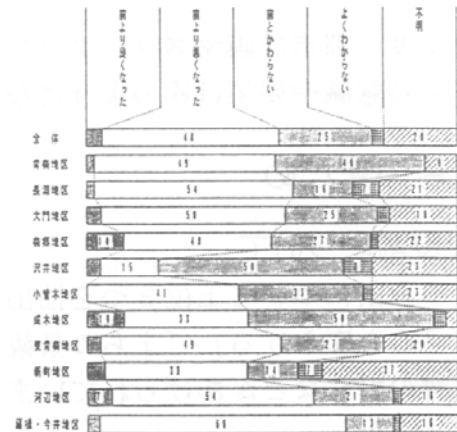
2) 緑量の変化

10年前と比較した緑量の変化は「前より悪くなった」と回答する人が約半数を占め、特に藤橋・今井、河辺、長淵などの市街地で減少が指摘されています。一方、「良くなった」と回答する人は約4%とわずかであり、緑の豊富な成木、梅郷などの市外縁部で回答が多い傾向にあります。

■ 緑量の変化（全体）



■ 地区別の傾向



(3) 残す緑・増やす緑

1) 残したい緑

将来的に残していきたい緑としては「社寺境内地の緑」「山林」がそれぞれ過半数を占め、そのほか「河川沿い」「学校などの公共的施設の周辺」「雑木林など」の回答が多くなっています。地区別にみると、社寺の緑の保全是、青梅、梅郷、小曾木などの旧街道沿いで過半数を超え、山林は、藤橋・今井、大門、青梅などの市街地で、河川沿いの緑は、沢井、梅郷などの多摩川が流れる地区でそれぞれ多くなっています。

残したいみどり	割合	地区名	割合
神社やお寺の境内	(55.7%)	青梅、梅郷、小曾木、成木	(60%以上)
山林	(52.9%)	藤橋・今井、小曾木、大門、青梅	(55%以上)
河川沿い	(49.5%)	沢井、梅郷、河辺、青梅	(55%以上)
学校などの公共的施設の周辺	(48.6%)	大門、小曾木、長淵、成木	(50%以上)
雑木林など	(48.5%)	小曾木、藤橋・今井、梅郷、青梅	(50%以上)

2) 増やしたい緑

将来的に増やしたい緑は「街路樹・道路の植樹帯」が最も多く、次いで「公園・児童遊園」「駅前広場等の周辺」「学校や公共的施設の周辺」となっています。地区別にみると、街路樹や公園などの整備を望んでいるのは、藤橋・今井、沢井、小曾木の既存の公園の少ない市街地であり、駅前広場の緑を希望しているのは、東青梅などの駅が立地する地区となっています。

増やしたいみどり	割合	地区名	割合
街路樹・道路の植樹帯	(67.3%)	藤橋・今井、小曾木、沢井、成木	(75%以上)
公園・児童遊園	(54.1%)	藤橋・今井、青梅、小曾木、長淵	(58%以上)
駅前広場等の周辺	(47.9%)	東青梅、大門、新町、藤橋・今井	(50%以上)
学校などの公共的施設の周辺	(46.5%)	藤橋・今井、小曾木	(50%以上)

(4) 緑に関する施策について

今後、行政が重点をおくべき緑に関する施策については、「河川周辺の緑の保全」「道路の街路樹の整備」「市街地の樹林地の保全」という回答が各々50%以上となっていました。地区別にみると、新町、青梅の市街地で道路や公園等の施設整備・緑化に対する回答が多く、沢井、小曾木などの多摩川沿いや丘陵地では、河川や樹林地の保全に対する回答が多くありました。

次いで「学校等公共施設に緑を増やす」「公園内に緑を増やす」などの都市緑化の推進に関する回答が各々35%以上と多くなっており、地区別には、東青梅、新町、梅郷といった市街地において多くなっています。

この他、「会社・企業への緑化指導」「小中学校での緑に関する教育」などの普及啓発に関するソフト施策の充実に対する回答も各々30%以上と比較的多く、前記と同様に、東青梅、新町、青梅などの市街地において回答が多くなっています。

希望する施策	地区名
河川周辺の緑の保全 (54.9%)	沢井、小曾木、長淵、梅郷 (58%以上)
道路の街路樹の整備 (54.1%)	新町、沢井、青梅、東青梅 (55%以上)
市街地の樹林地の保全 (51.5%)	梅郷、成木、青梅、新町 (50%以上)
学校等公共施設の緑を増やす (38.8%)	新町、東青梅、梅郷、小曾木 (40%以上)
公園内に緑を増やす (37.8%)	東青梅、新町、梅郷 (40%以上)
企業・事業所への緑化指導 (32.6%)	新町、大門、東青梅 (35%以上)
小中学校での緑に関する教育 (32.4%)	青梅、河辺、小曾木 (35%以上)
苗木の配布 (30.5%)	藤橋・今井、大門、長淵 (35%以上)
生け垣設置に対する補助金 (26.3%)	藤橋・今井、新町、大門 (35%以上)
庭木の管理に関する無料相談 (25.0%)	新町、沢井、大門 (30%以上)
市民農園の増設 (22.8%)	梅郷、成木 (30%以上)
都市公園の新設 (21.9%)	梅郷、長淵、青梅 (25%以上)
住宅建設時の緑化指導強化 (21.5%)	東青梅、青梅 (25%以上)

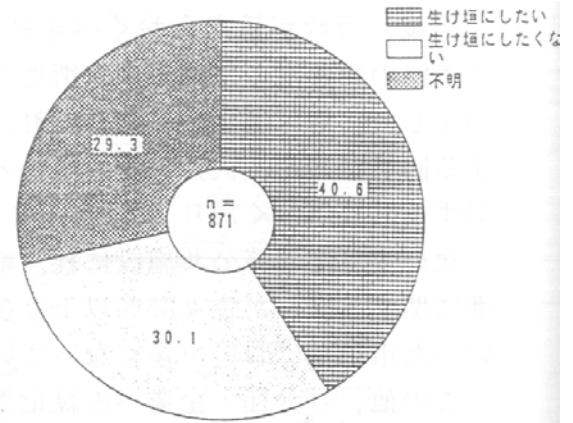
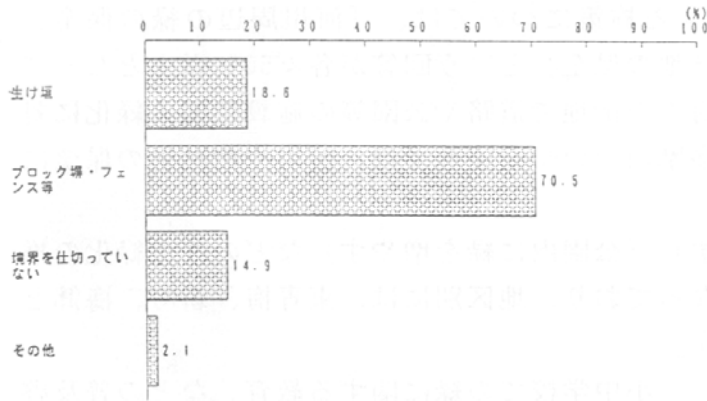
(5) 生け垣について

現在の住居周囲の仕切り方法、生け垣の希望、生け垣の良い点・悪い点について聞いたところ、仕切り方法は「ブロック塀・フェンス等」が過半数を超え、「生け垣」は2割に満たなかったものの、今後生け垣を取り入れたいと希望する人は約4割におよびました。生け垣の良い点は「心に安らぎと潤いを与えてくれる」

「四季折々の季節感を楽しめる」「地震や火災の際ブロック塀より安全」が多く、悪い点は「手入れをするのが大変」「維持費がかかる」「造成費用がかさむ」の回答が多くなっています。

■ 住居周囲の仕切り方法

■ 生け垣化の希望



良い点	悪い点
心に安らぎと潤いを与えてくれる	手入れするのが大変
四季折々の季節感を楽しめる	維持費に係る
地震や火災の際ブロック塀より安全	防災上不安
手入れするのが楽しみ	造成費用がかさむ

(6) 緑化活動への参加・協力について

市民が参加・協力したい緑化活動としては「地域の美化・緑化」が最も多く、そのほか「公園・緑地の管理」「水辺環境の保全」「自然の保護」「緑化資金の協力」が多くなっています。地区別にみると「地域の美化・緑化への参加・協力」については、緑の多い沢井地区などで多くなっており、「公園・緑地の管理」は、新町や青梅などの市街地で多くなっています。水辺環境の保全については、河川が流れる小曾木や沢井地区などで多くなっています。

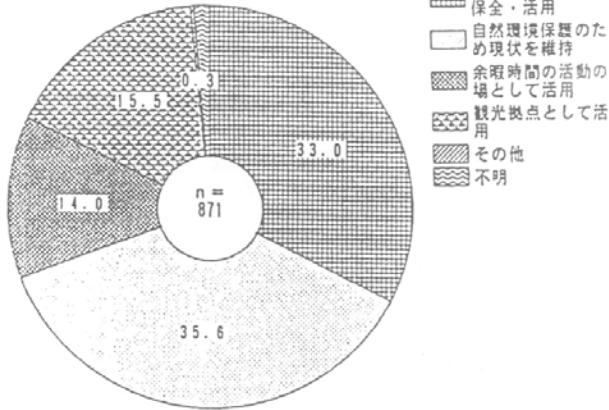
緑化活動への参加・協力	地区名
地域の美化・緑化 (78.9%)	沢井、小曾木、藤橋・今井 (80%以上)
公園・緑地の管理 (38.5%)	新町、青梅、小曾木 (45%以上)
水辺環境の保全 (33.8%)	小曾木、沢井、成木 (45%以上)
自然の保護 (28.2%)	東青梅、梅郷、河辺 (30%以上)
緑化資金への協力 (28.1%)	青梅、新町、大門、梅郷 (40%以上)

(7) 緑地の保全・整備について

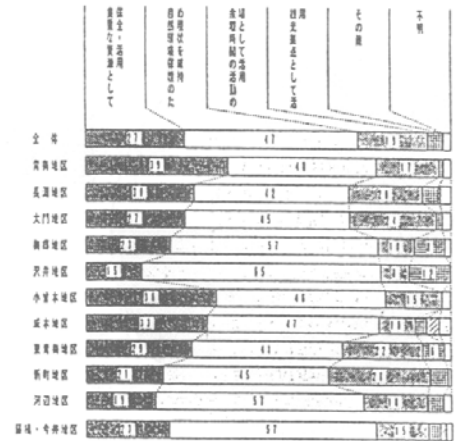
1) 市域全体および居住地における自然地の活用について

市域全体の自然地の活用に対する希望は「自然環境保護のため現状を維持」「貴重な資源として保全・活用」との回答が多く、「観光拠点」や「余暇活動の場」との回答は少なくなっています。居住地における自然地の利用をみると、新町、大門、東青梅などの市街地で「余暇時間の活動の場として活用」との回答が多くなっています。

■ 市域全体



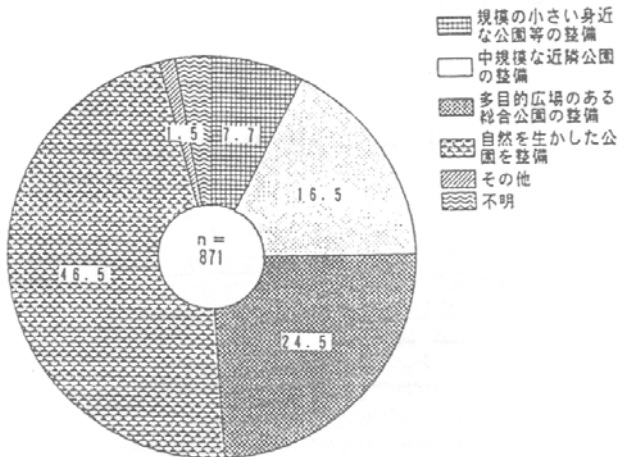
■ 居住地周辺



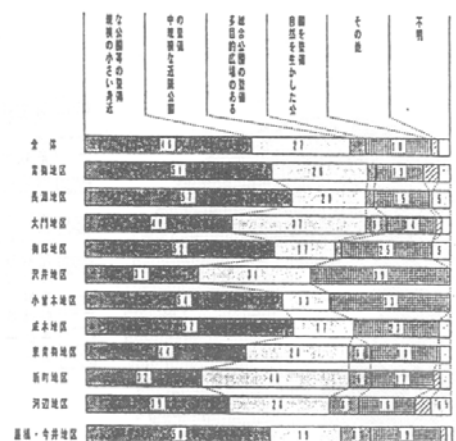
2) 市域全体および居住地の公園整備について

将来的な市域全体の公園構想については「自然を生かした公園を整備」との回答が最も多く、そのほか「多目的広場のある総合公園」「中規模な近隣公園」との回答も多くみられました。一方、居住地周辺については「規模の小さい身近な公園等の整備」との回答が最も多く、成木、長淵、小曾木、梅郷、青梅、藤橋・今井などで過半数の回答を得ています。

■ 市域全体



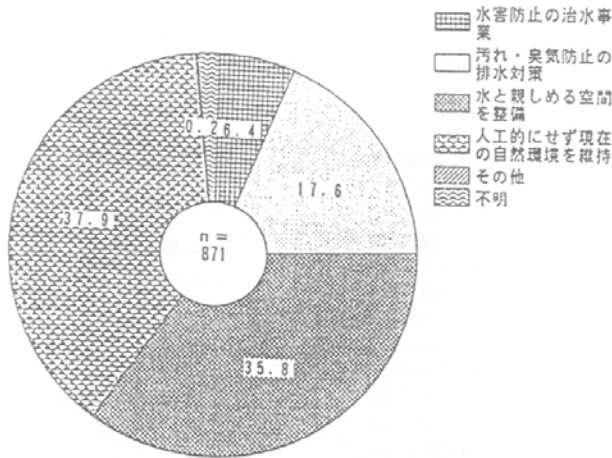
■ 居住地周辺



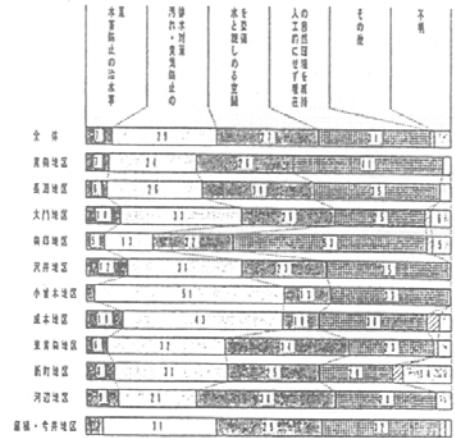
3) 市域全体および居住地の河川整備について

将来的な市域全体の河川構想については「人工的にせず現在の自然環境を維持」「水と親しめる空間を整備」との回答が多く、居住地における河川構想についても同様の傾向を示しています。

■ 市域全体



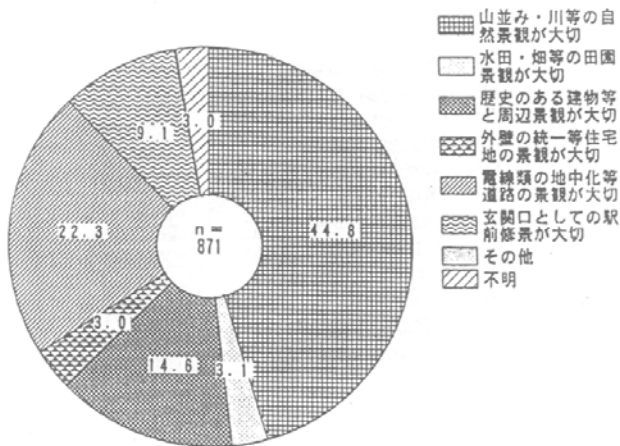
■ 居住地周辺



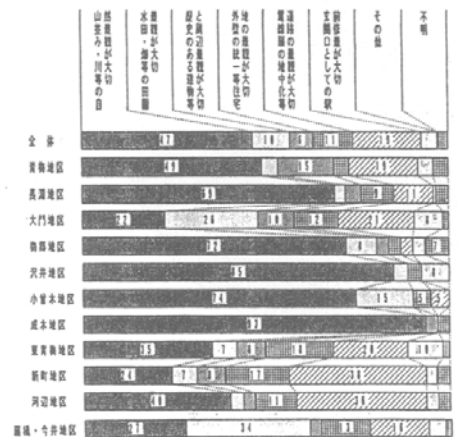
4) 市域全体および居住地の景観形成について

将来的な市域全体の景観構想については「山並み・川等の自然景観が大切」との回答が最も多く、そのほか「電線類の地中化等道路の景観が大切」「歴史ある建物等と周辺景観が大切」との回答が多くなっています。居住地における景観構想については、新町、河辺などの市街地で道路景観を重視、成木、沢井、小曾木、梅郷などの山地・丘陵地で自然景観を重視、藤橋・今井、大門などの比較的農地の多い地区で田園景観を重視する傾向がみられました。

■ 市域全体



■ 居住地周辺



(8) 設問回答のまとめ

①緑の役割

緑の役割に関しては、日常生活においてきれいな空気を供給する、心を安らげると考えている人が多い。また、街路樹や公園等が美しい都市景観の形成に寄与しているなど緑が日常生活において重要であると考えている人は多いといえます。

②緑の量に対する満足度

緑の量に対する満足度は、山地・丘陵地に居住する人は満足度が高く、市街地に居住する人は低い傾向にあることから、現状の緑の量との関係が強くみられます。また、10年前からの緑量の変化は少なくなったと感じている人が約半数おり、特に市街地で緑の減少を感じている人が多くなっています。

③保全・創出すべき緑

保全すべき緑としては、社寺林や山林、崖線樹林などを残していきたいと考える人が多く、今後創出すべき緑としては、街路樹、公園緑地、駅前広場など、多くの市民が集う公共施設の緑を増やしたいと考える人が多くなっています。これらについては、回答した人の居住地周辺に残されている緑、不足している緑の質・量との関係により地区別に差異がみられている。

④行政が重点をおくべき緑に関する施策

今後、行政が重点をおくべき緑に関する施策については、河川沿いの緑や山林の保全、道路や公園等の公共施設の緑化など、緑に関するハード面での整備や保全に対する希望が多くなっています。地区別にみると、市街地では、公園の整備、公共施設の緑化への希望が多く、多摩川沿いや丘陵地では、河川の緑や山林の保全に対する希望が多くなっています。また、ソフト面では、企業などへの緑化指導、子供への緑化・自然保護意識の啓蒙（けいもう）などの行政からの教育・指導に対する希望が多くなっています。

⑤生け垣の設置・緑化活動への参加協力

現在、生け垣を設置している家庭は多くありません。これは生け垣の手入れや維持費の問題が要因と考えられます。しかしながら、今後取り入れたいと希望する家庭は約4割にのぼることから、「生け垣設置費補助制度」などを活用し、塀の生け垣化を推進していく必要があるものと考えられます。

緑化活動への参加・協力の意向については、居住地周辺の美化・緑化活動に対する参加・協力への意向が高く、特に丘陵地などの緑が多い地区での希望が多くなっています。また、市街地では、公園緑地の管理に対する希望が比較的多くなっています。

⑥緑地の活用方法

市域レベルでみた緑地の活用方法については、農地、自然地、河川などは現状を維持していくことを希望する人が多いが、居住地周辺の緑地の活用方法については、山地や丘陵地の一部地区において住宅地への土地利用転換を希望する人も多くなっています。

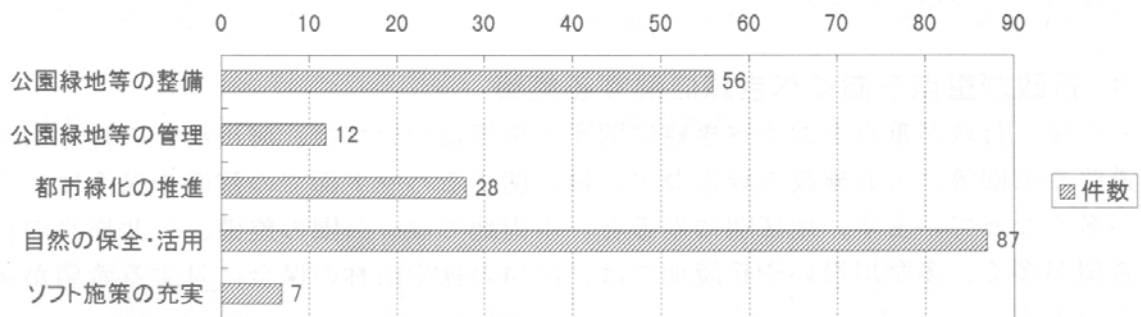
公園緑地等は、市域レベルとしては、自然公園や総合公園などの大規模な公園の整備が望まれています。居住地周辺には街区・近隣公園クラスの身近に歩いていける公園の整備が望まれています。

2. フリー回答のまとめ

平成9年度「都市計画マスタープラン策定に関するアンケート調査」におけるフリー回答において、緑に関する回答は合計190件でした。

このうち、公園緑地等の整備に関する要望は56件、公園緑地等の管理に関する要望は12件、都市緑化の推進に関する要望は28件、自然の保全・活用に関する要望は87件、ソフト施策の充実に関する要望は7件と、秩父多摩甲斐国立公園や多摩川に代表される豊かな自然環境に恵まれた本市の自然的特性が反映され、自然の保全・活用に関する要望が非常に多い結果となっています。

■ 緑に関する回答の内訳



①公園緑地等の整備

公園緑地等の整備については、スポーツ活動のできるグラウンドや、子供たちが安心して遊ぶことのできる公園・広場などの整備に対する要望が多くみられました。また、回答者の居住地への公園整備に対する要望も比較的多くみられました。

②公園緑地等の管理

公園緑地等の管理については、公園緑地等への災害時に対応した備蓄、清掃などの維持管理の充実に対する回答が多くなっています。また、街路樹の落ち葉清掃やせん定に対する要望も比較的多くみられました。

③都市緑化の推進

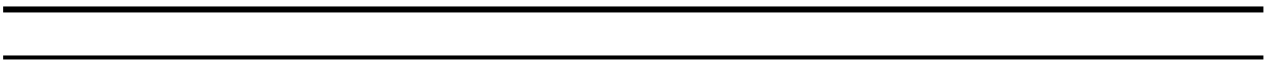
都市緑化の推進については、駅前広場や商店街などの市民が多く集まる施設の緑化に対する要望が多く、特に草花の植栽により、季節感や華やかさを演出することが求められています。また、マンションなどの中高層建築物の緑化に対する要望も比較的多くみられました。

④自然の保全・活用

自然の保全・活用については、人工的な緑を整備していくよりも、現存する自然の緑を守っていききたいという要望が多く、大規模な開発に対する反対意見や、マンション等の建築に対する規制を設けるべきとの要望も多くみられた。また、山林のほとんどを占めるスギ植林のクヌギ・コナラなどの雑木林への樹種変更に対する要望が比較的多くみられました。

⑤ソフト施策の充実

緑に関するソフト施策の充実については、市広報の活用や子供の教育の一環として、環境学習・環境教育などの普及啓発活動の推進に対する要望が多くみられました。



II. 広報での素案公開に寄せられた市民意見

平成 20 年 8 月 20 日発行の「広報おうめ〈特集号〉」で「青梅市緑の基本計画一部見直し【素案】」を公表し、市民意見を募集した結果、26 名の市民から 40 の意見が寄せられた。主な内容は以下の通りです。

	市民意見の主な内容
1	緑の基本計画の見直し案に賛成です。
2	見直し案に賛成です。条例で開発を規制して欲しい。
3	永山北部丘陵の緑地保全に賛成です。
4	永山北部の保全は、都民の癒しの場にもなる。
5	永山の保全は良い。
6	永山が自然ゾーンになったことは良い。
7	永山の保全は反対です。公園や遊び場、スポーツ施設等を検討して欲しい。
8	永山の保全は反対です。永山公園を拡張し、活用すべきだ。
9	小曾木丘陵の森林を整備して欲しい。
10	自然環境を壊さないで欲しい。
11	自然の保全を願う。
12	CO2の吸収源としての緑の機能を追加する。
13	緑は心のゆとりにつながる。
14	景観確保の具体策が必要です。
15	里山の風情を大切にしたい。
16	丘陵部が自然環境活用ゾーンにすることは良い。
17	長淵丘陵を緑地保全の一番にして欲しい。大荷田の里山を守って欲しい。
18	黒沢採石場はそのままか、植林するのか。
19	千ヶ瀬北面に現存している崖線林は開発行為により、寸断化されている。緑地として保全するのが望ましい。
20	霞川の崖線林も特記すべき。
21	多摩川沿いの崖線林の保全方針を明記すべき。
22	樹林地の管理を行って欲しい。
23	スギ花粉の量を減らす検討を取って欲しい。
24	農地を活用して農業体験センターを設置してはどうか。
25	総合高校から霞保育園まで緑道を設置して欲しい。
26	風の子太陽の子広場を再整備して欲しい。
27	公園の管理を続けて欲しい。
28	新田山公園の樹木を剪定して欲しい。
29	オリエンテーリングコースも設置してはどうか。
30	落ち葉や間伐材を資源化(堆肥作り)する。
31	駅前や商店街を緑でいっぱいにする。
32	大規模な駐車場や広い道路には植栽する。
33	都市部の緑も大切、樹木を伐採しないで欲しい。
34	庭の緑を大切にすべきだ。
35	緑の保全は市民に期待しすぎている。
36	青梅IC付近の温暖化対策を検討して欲しい。
37	瑞穂町との境界部は自然環境活用ゾーンにすべきである。
38	長淵周辺の未整備地域も考慮して欲しい。
39	市民緑地保全税を集めてはどうか。
40	予算の無駄遣いをしないで欲しい。

Ⅲ. 一部見直しの経緯

平成 19 年 10 月の青梅市総合長期計画が変更され、永山北部丘陵を含む丘陵部の「新市街地計画ゾーン」が「自然環境活用ゾーン」に変更されました。そのため、緑の基本計画は一部見直しが必要となり、平成 20 年度より見直し作業に着手しました。主な経緯は以下の通りです。

平成 11 年 11 月	「青梅市緑の基本計画」策定
平成 19 年 10 月	「青梅市総合長期計画第 5 次基本構想前期基本計画」変更
平成 20 年 3 月	「青梅市総合長期計画第 5 次基本構想・後期基本計画」策定
平成 20 年 8 月	「青梅市緑の基本計画一部見直し（素案）」公表
平成 21 年 2 月	青梅市都市計画審議会で説明
平成 21 年 3 月	「青梅市緑の基本計画一部見直し」市議会全員協議会にて説明

